

BBLセミナー プレゼンテーション資料

2015年2月6日

「アウトソーシングの国際経済学について」

富浦 英一

アウトソーシングの国際経済学 について

～どのような企業が
国境と企業の境界を越えるのか～

2015年2月

富浦 英一

本日の概要

- 海外アウトソーシングが注目された背景
- 日本企業による海外アウトソーシングの概況
- 海外アウトソーシングと企業特性の関係
- 海外アウトソーシングの今後を占う視点
- 詳しくは、富浦(2014)『アウトソーシングの国際経済学』(日本評論社)をご参照下さい。(本資料中の図表の出典も原則同書。)

用語の定義

	国内(Domestic)	海外(Offshore)
社内(In)	Domestic intra-firm sourcing	Offshore intra-firm sourcing
社外(Out)	Domestic outsourcing	狭義の Offshore outsourcing

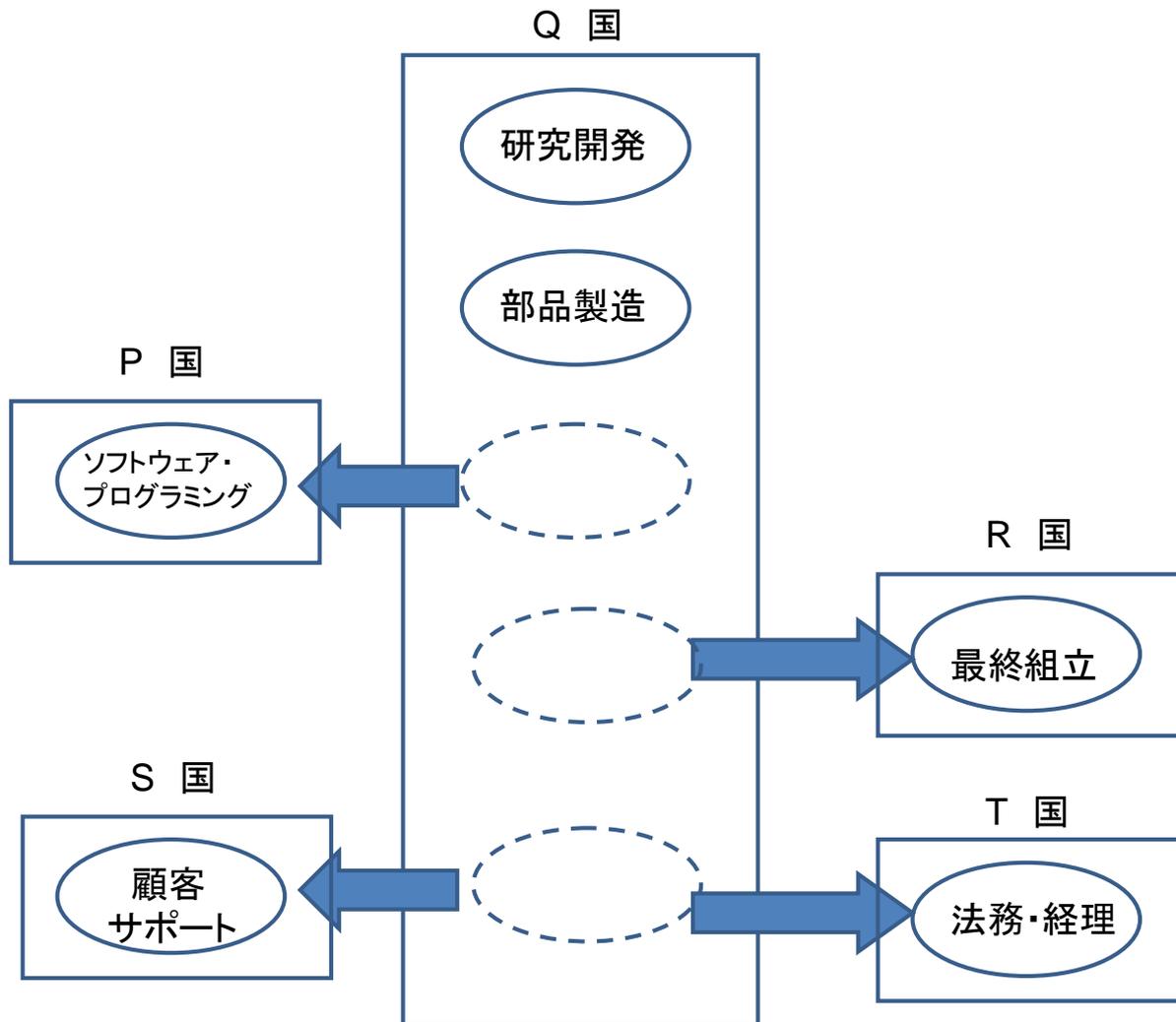
海外アウトソーシング
(Offshore sourcing,
広義のOffshore outsourcing)

グローバル貿易の変貌

- 貿易財 = 完成品 or 天然資源



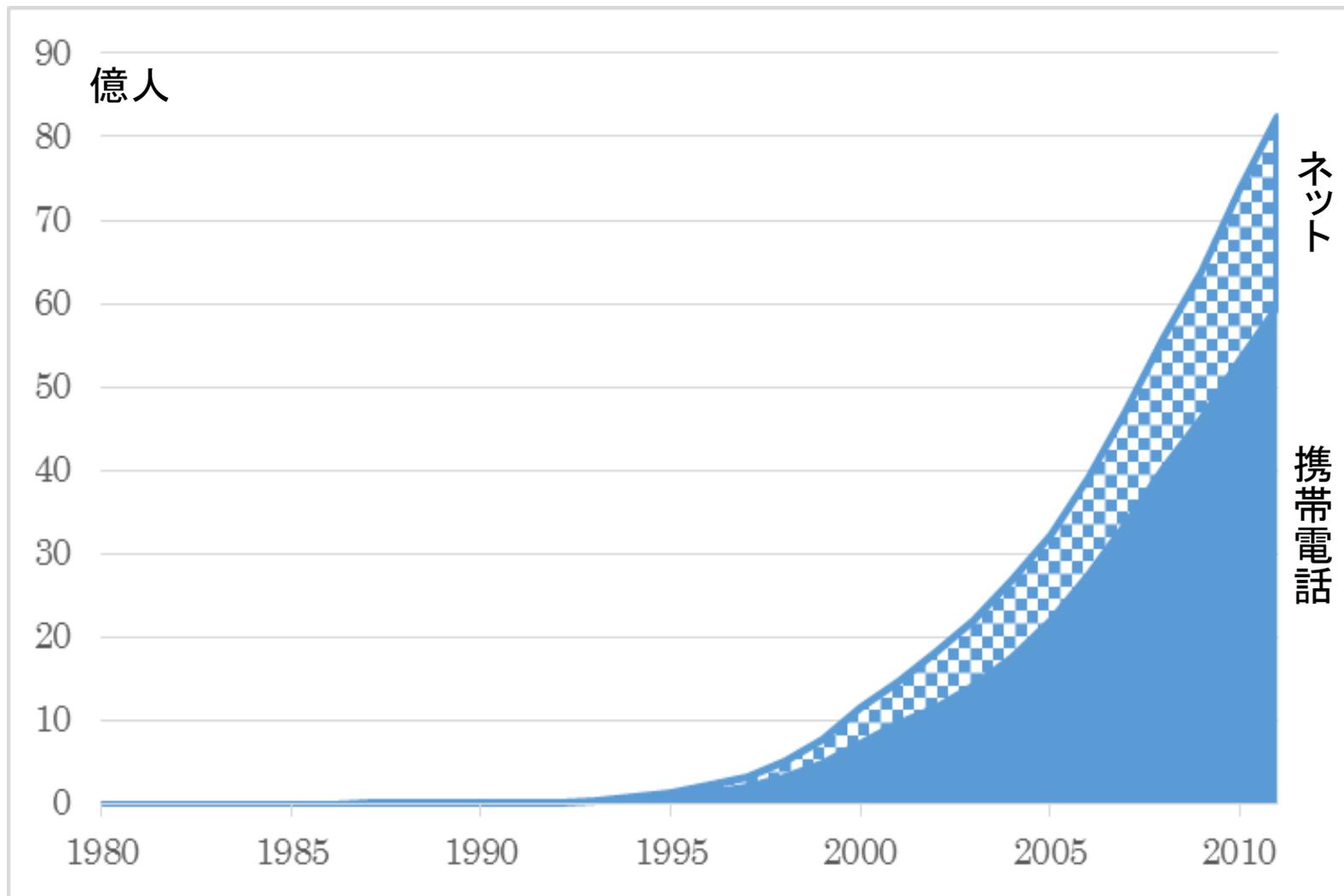
- 貿易が中間財に拡大
(生産工程のfragmentation)
- 貿易可能なサービスも拡大 (unbundling)
- 貿易かFDI→第三の形態 (UNCTAD)



アウトソーシングの本格化

- 「2000年問題」
- World is Flat.
- ソフトウェア・プログラミング、コールセンター
- インド

- 日本でも「総務課」が中国へ



世界銀行World Development Indicator

オフショア可能性

- 遠距離でも質が劣化せず提供可能
- ブラインダーの試算
- 資本集約・ハイテク産業を重視する産業政策
- 高度技能職種とは一致せず、中間層の陥没

職 種	オフショア 可能性	雇用者数 (万人)
コンピュータ・プログラマ	100	38.9
データ入力	100	29.7
統計学者	96	1.7
電話勧誘販売	95	40.1
顧客サービス	94	51.7
旅行代理店員	94	16.0
ワープロ・タイピスト	94	15.4
事務員	94	74.9
コンピュータ・システム・アナリスト	93	49.2
通訳・翻訳	93	2.2
保険請求・契約	93	23.9
経理事務	90	51.3
エコノミスト	89	1.2
簿記・会計・監査事務	84	181.5

Blinderによる試算

貿易理論の変革期

- リカード、ヘクシャー・オリーン 比較優位



- 新貿易理論 Krugman 不完全競争



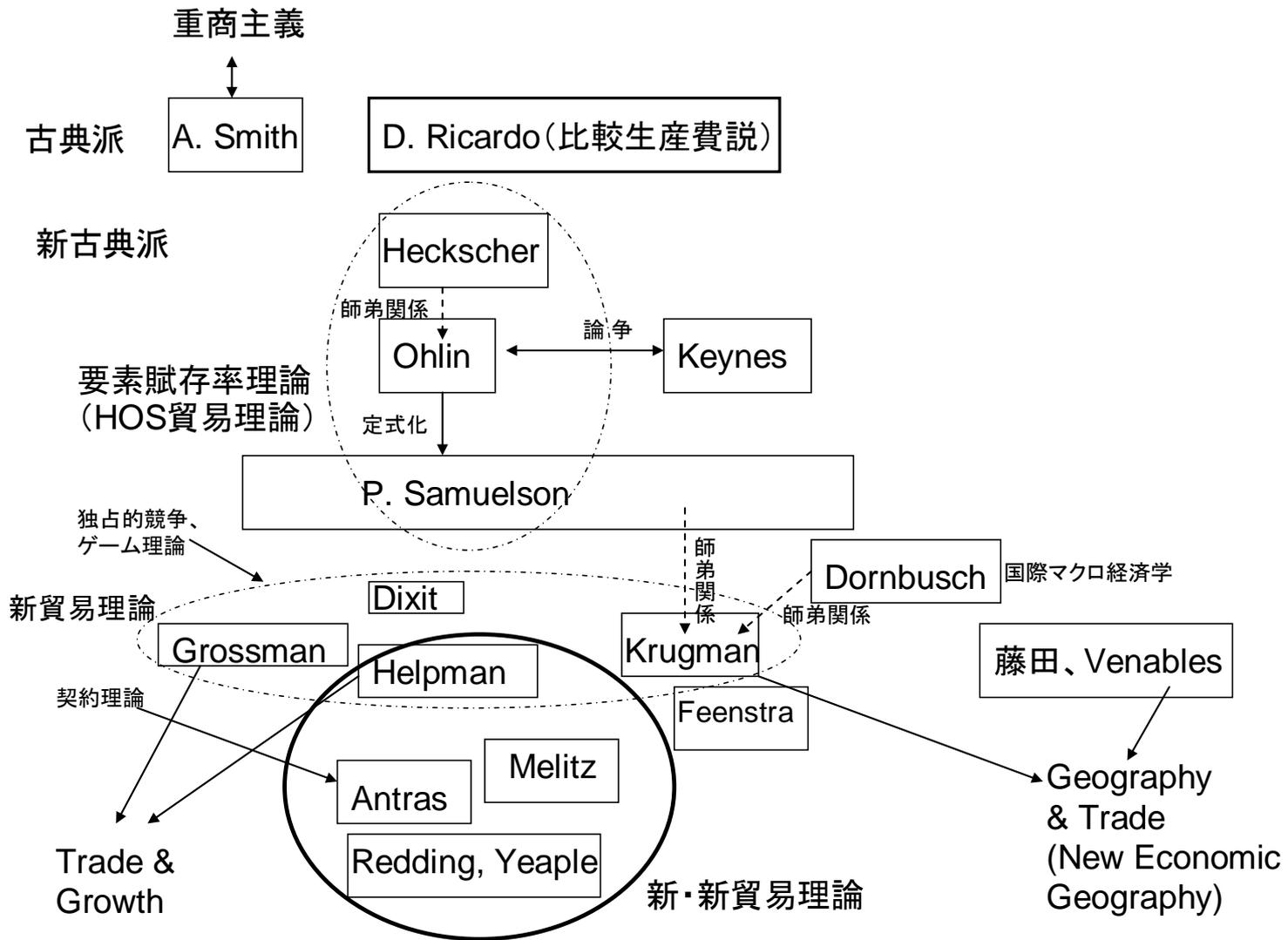
- 新・新貿易理論 今世紀に入って

企業の異質性に着目してグローバル化を分析

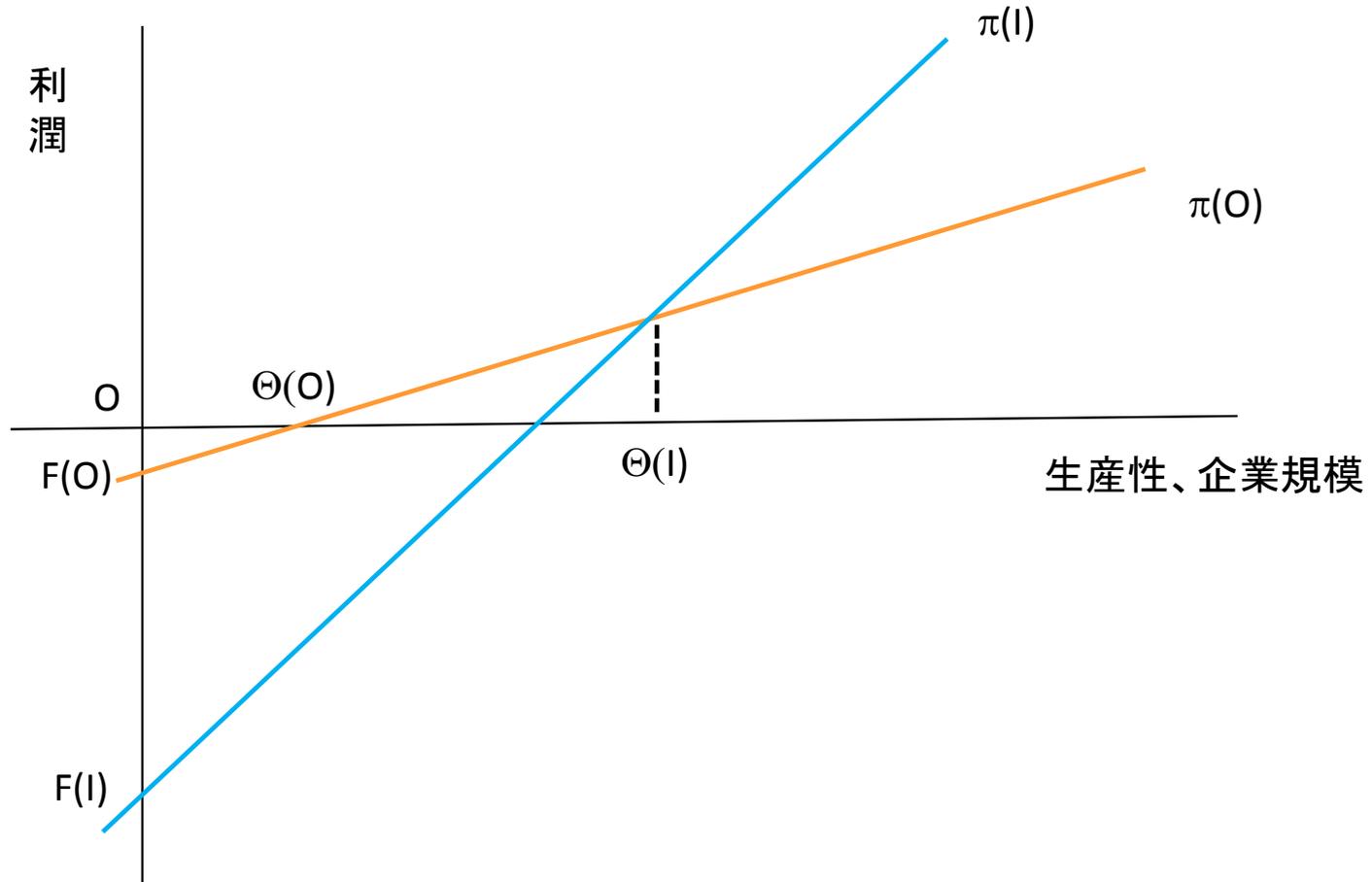
Antras・Helpman アウトソーシングの内外選択

国内：海外、社内：社外の4類型

生産性による企業の「ふるい分け」

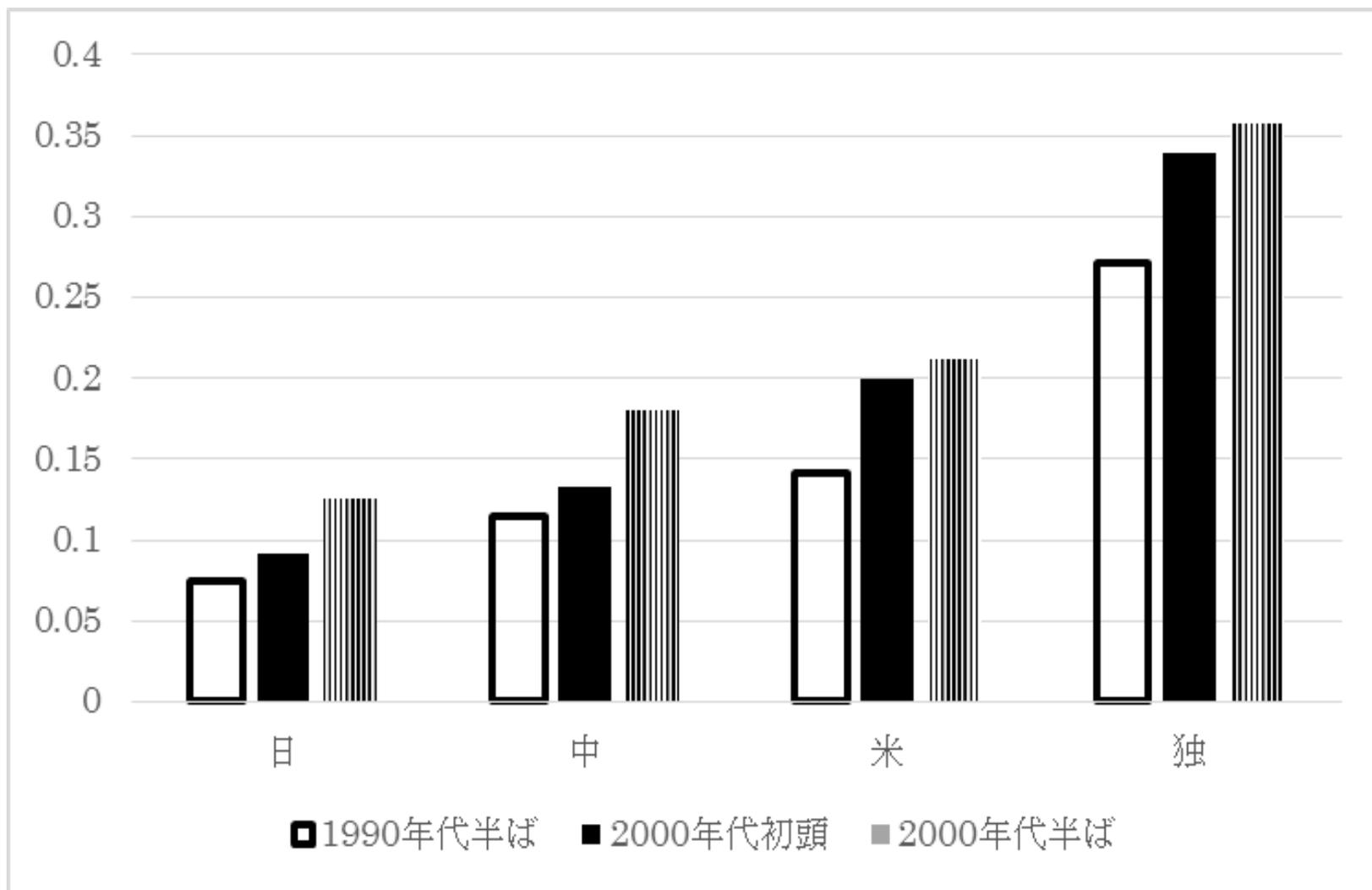


アウトソーシングかFDIか



海外アウトソーシングの「尺度」

- 産業連関表における中間投入輸入
- 貿易統計における部品の貿易
- 委託加工貿易
- 企業データ
 企業活動基本調査統計(充実→今後に期待)



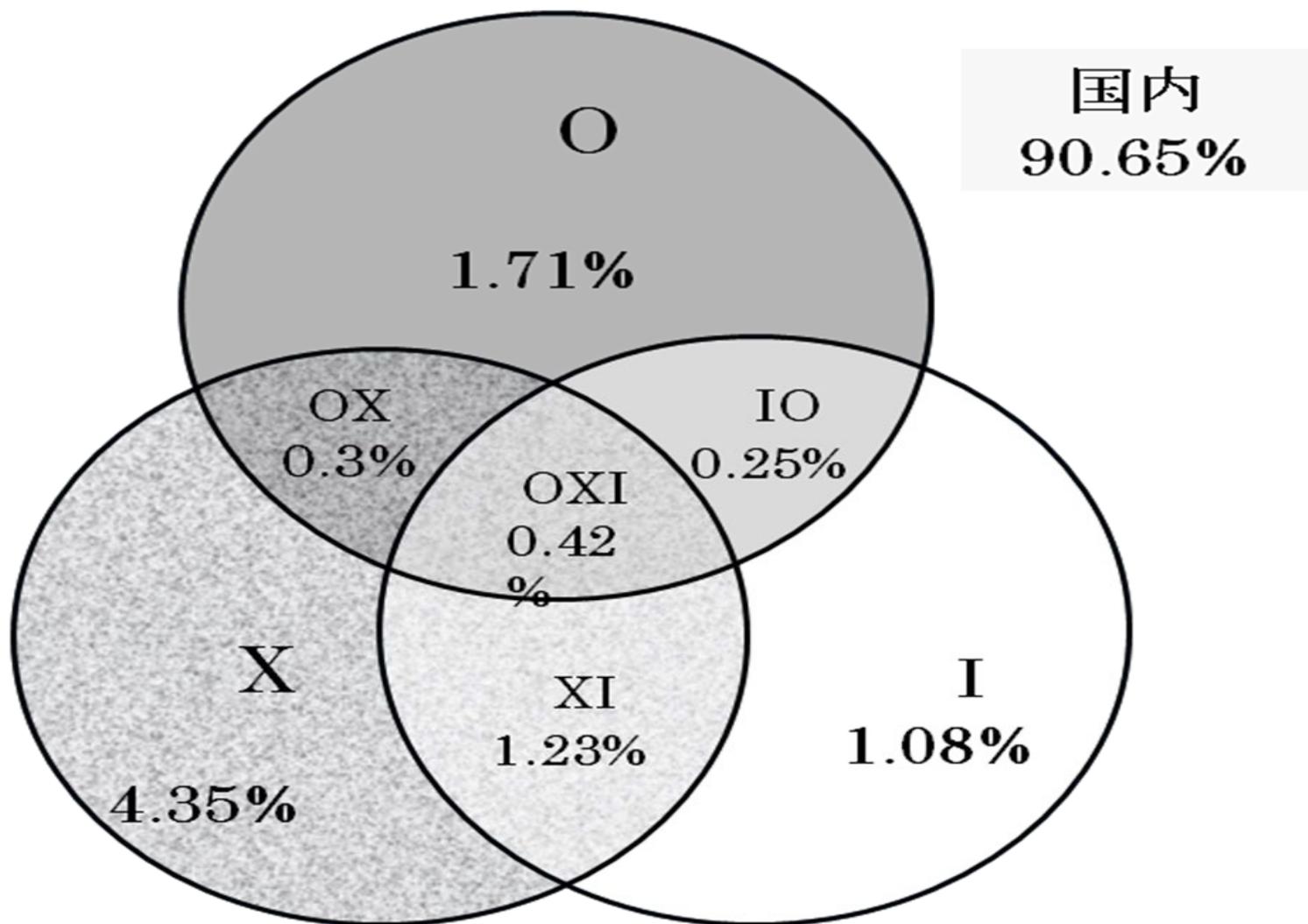
OECD-STAN

今回の分析に用いた企業データ

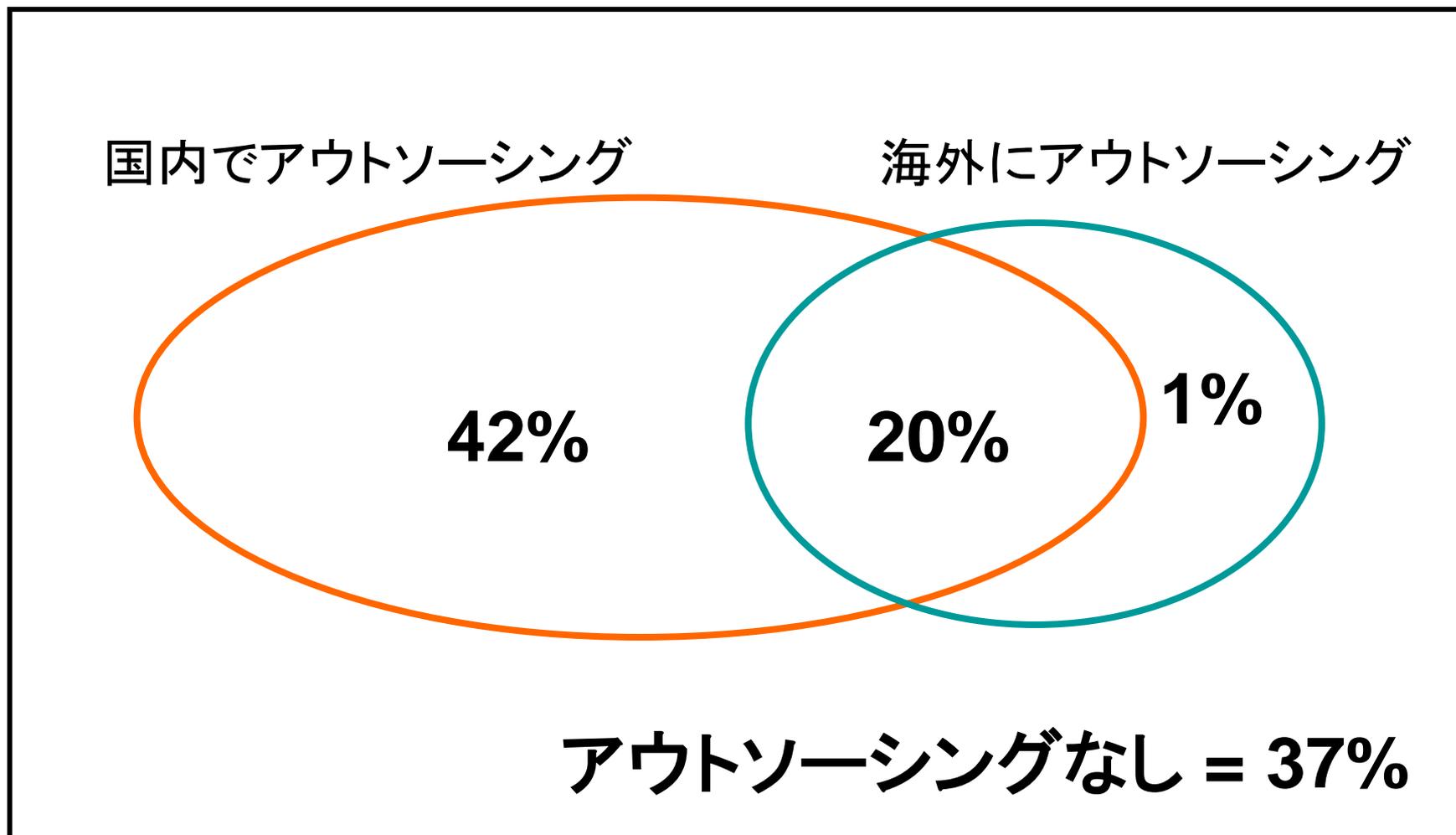
- 商工業実態基本調査
裾切りなく零細企業も含む＝118,300社
1998年一回、製造の外注のみ
- RIETIで実施した独自調査
中堅・大企業に限定、
2006(2001)年
サービスの外注も含む、仕向先も区分

我が国企業の海外アウトソーシング

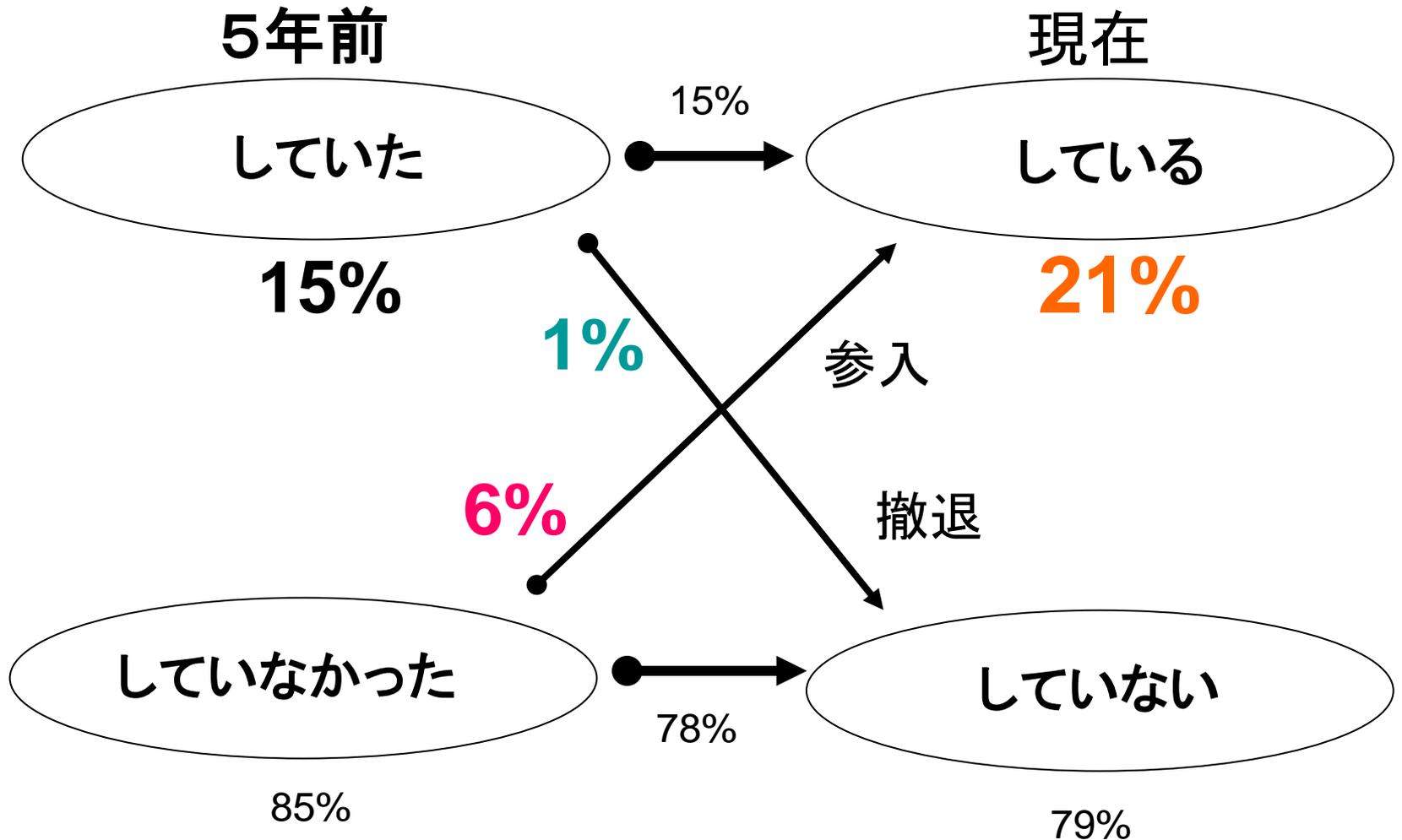
- 海外にアウトソーシングしている企業は、増加しているとはいえ、依然としてごく一部に限られる。特にサービスの外注は少。
- 規模による違いは特に顕著。
- 大多数を占める中小企業に、海外アウトソーシング活用のポテンシャル大。

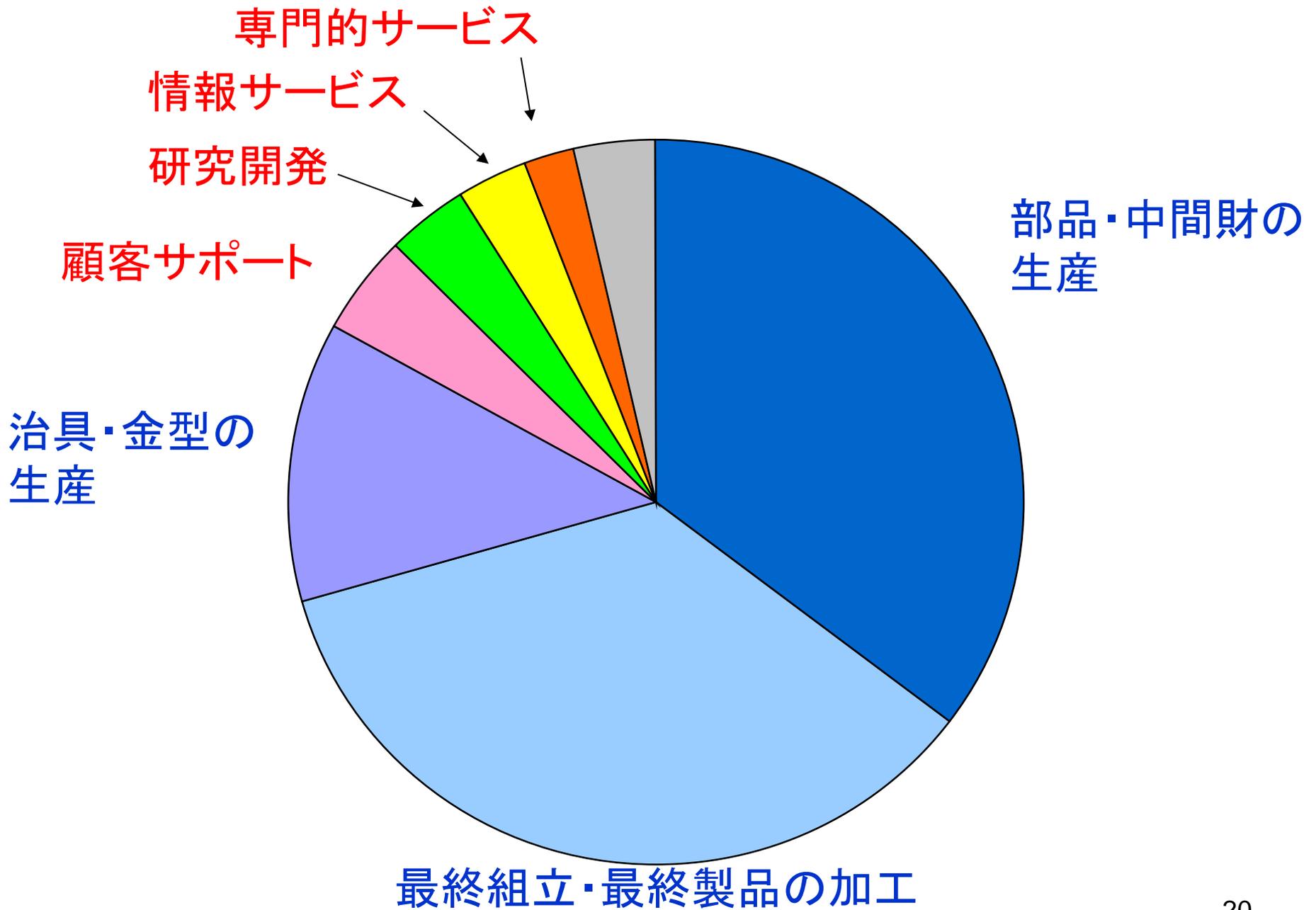


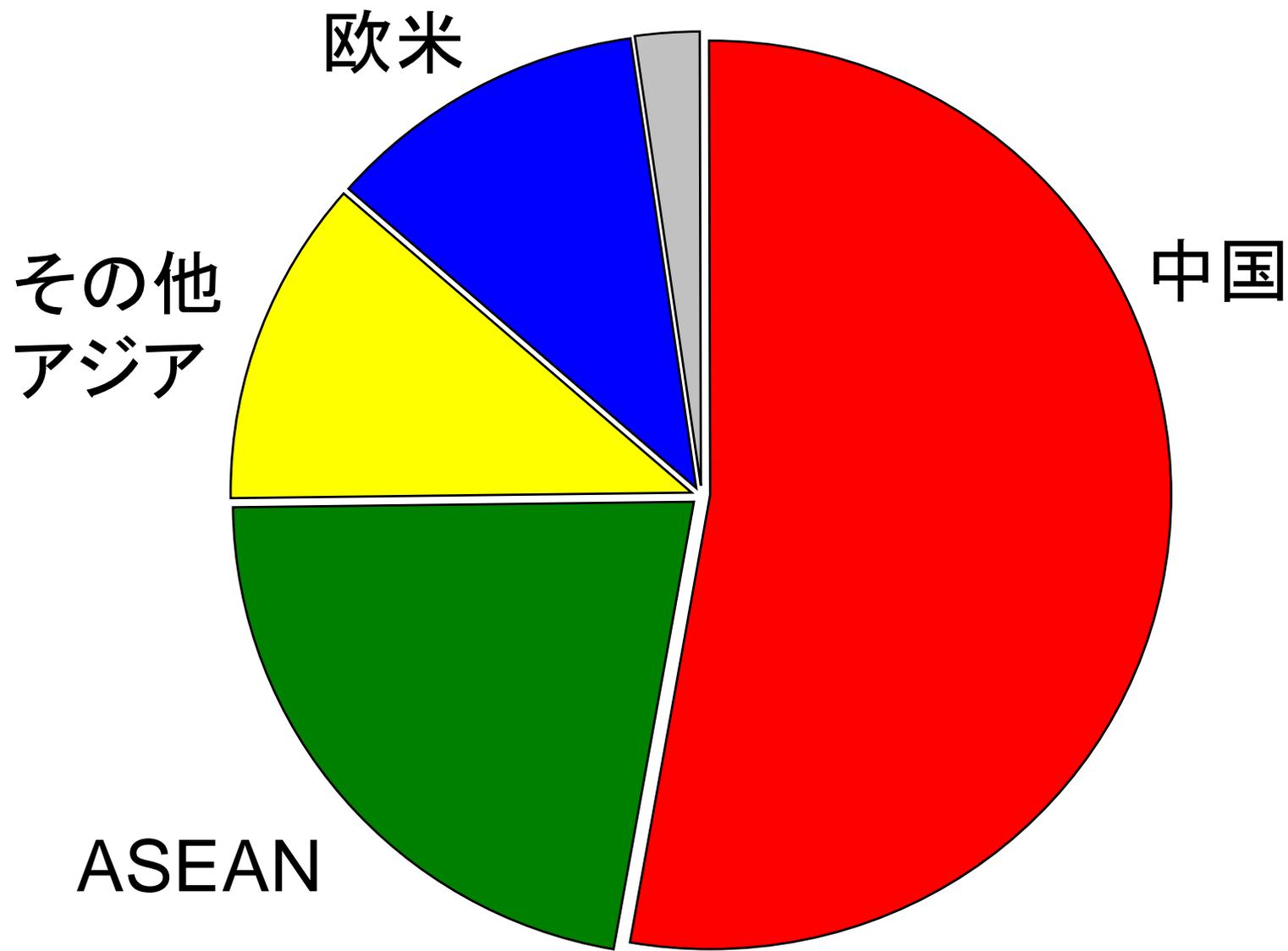
海外アウトソーシングは一部企業のみ

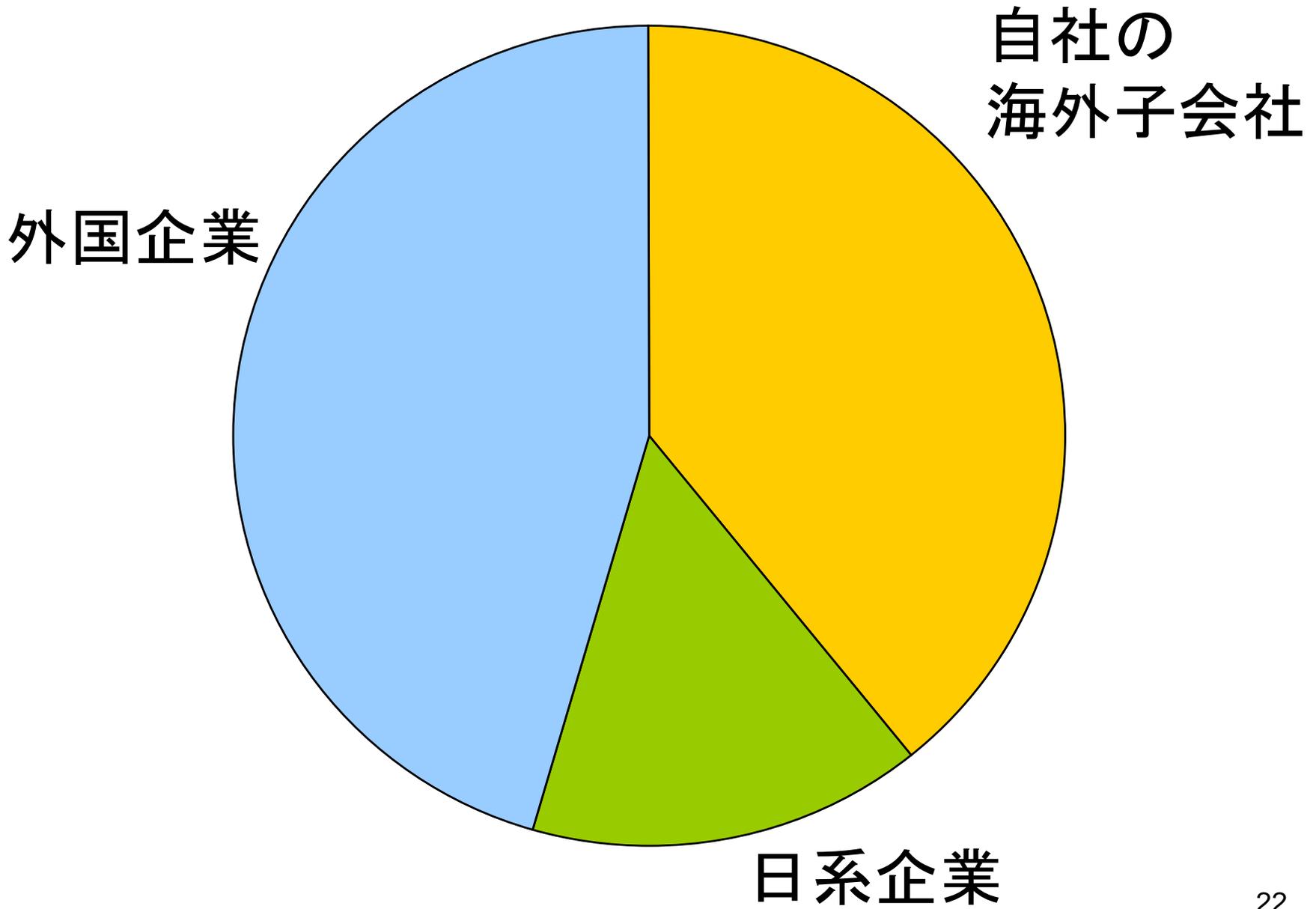


海外にアウトソーシングする企業は増大



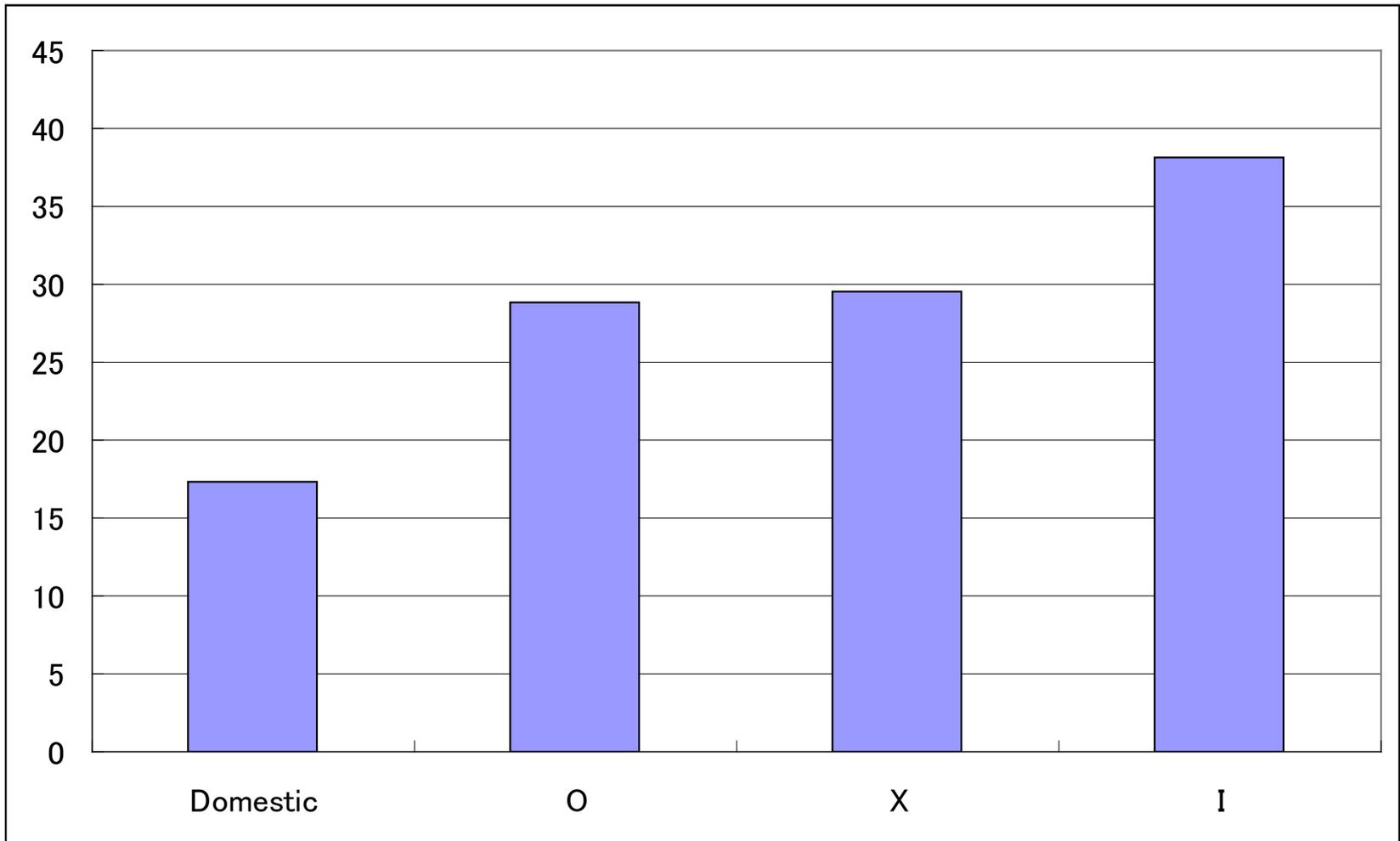






生産性の格差

- 国内 < 海外アウトソーシング < FDI
- 同じ業種、似た企業規模の中でも
- 平均値だけでなく分布型を見ても
- ただ、因果の方向性は？
自己選別 vs. 習熟効果

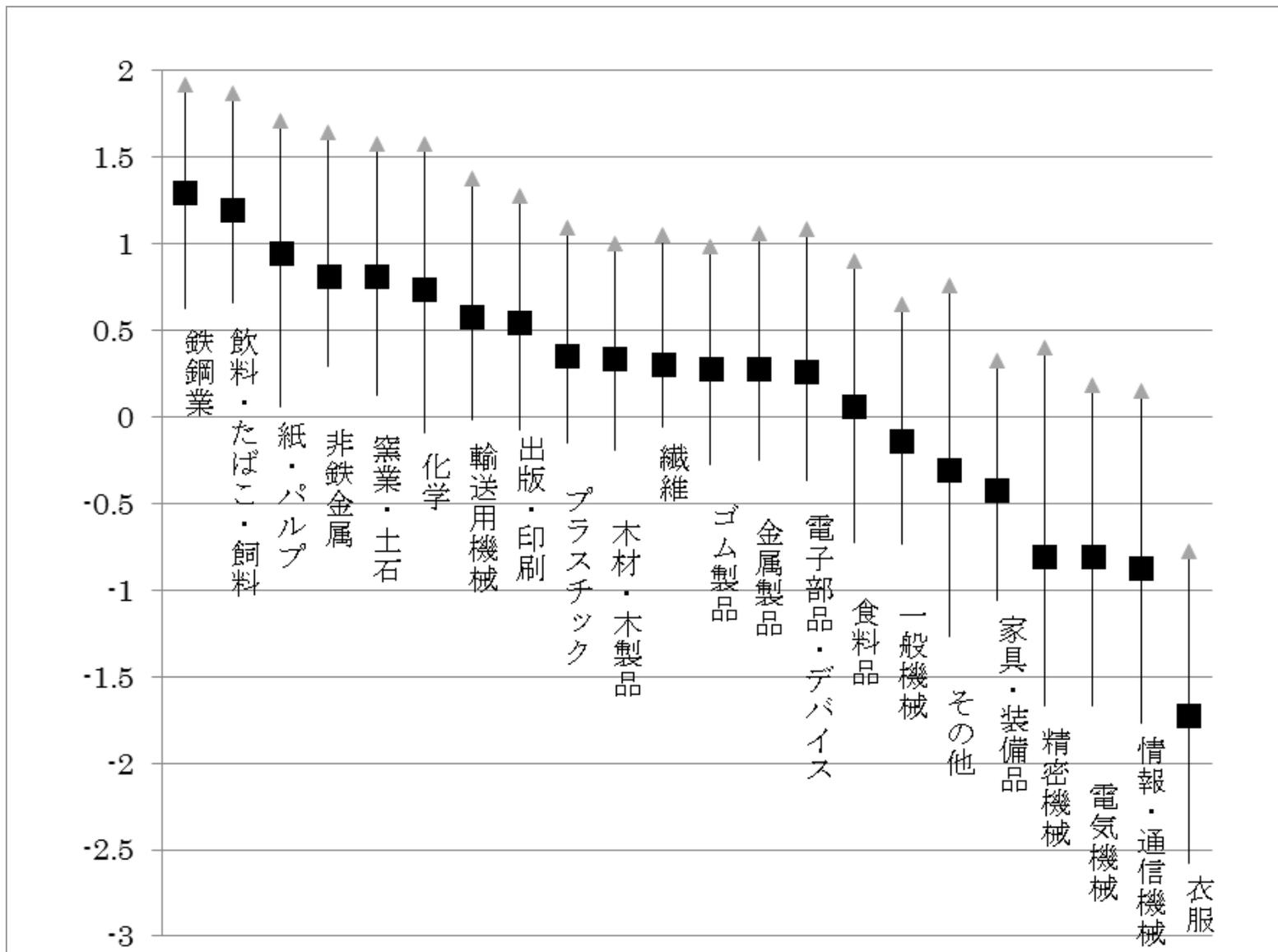


労働／資本比率

- Nike vs. Intel
- 経済学における契約理論の応用
- 労働集約的／資本集約的な企業ほど、海外アウトソーシングにおいて社外／社内を選択。
- 実際に、同じ産業でも資本/労働比率の違いは大きい。

	 Footwear				 Apparel				 Equipment				Global			
	FY06	FY07	FY08	FY09	FY06	FY07	FY08	FY09	FY06	FY07	FY08	FY09	FY06	FY07	FY08	FY09
Americas	11	16	15	13	85	82	83	83	30	28	23	20	126	126	121	116
EMEA	4	2	2	2	59	58	45	37	18	19	16	14	81	79	63	53
N Asia	39	35	38	38	138	141	149	134	108	107	117	102	285	283	304	274
S Asia	19	23	19	18	155	151	163	137	21	17	20	20	195	191	202	175
TOTAL	73	76	74	71	437	432	440	391	177	171	176	156	687	679	690	618

<http://www.nikebiz.com/crreport/content/workers-and-factories/3-2-1-profile-of-factories.php?cat=profiles>

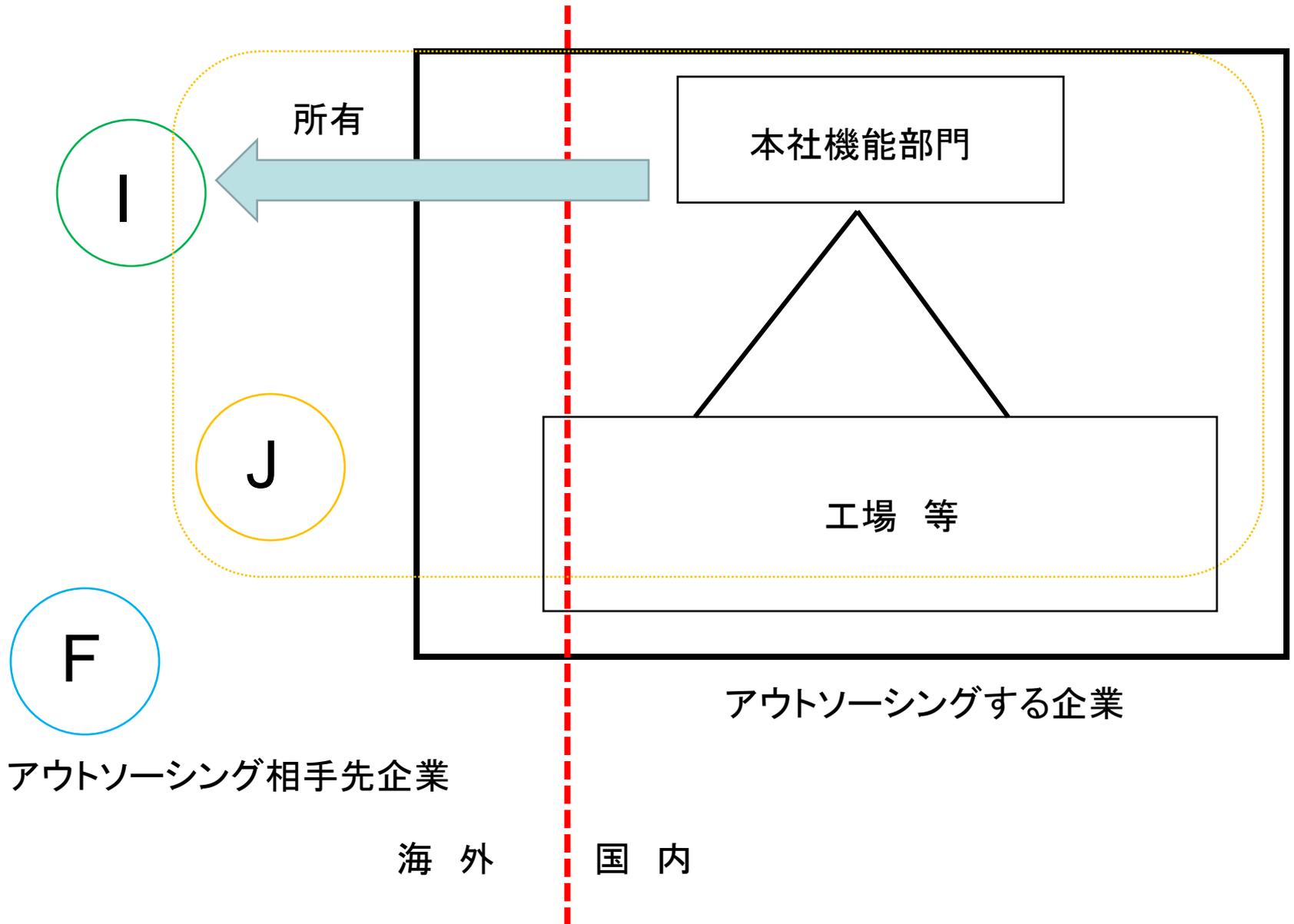


技能の高度化

- 海外アウトソーシング企業では、生産／非生産労働比率が低下。
- しかし、非生産＝高度技能は過度の単純化
- 海外アウトソーシング企業では、非生産労働の中でも、高度技能の割合が上昇。

国際部門の役割

- 労働を高度技能：単純に分ける二分法は過度の単純化。
- 海外事業に必要とされる特殊技能
- 外国企業に海外アウトソーシングする企業では、国際部門の比重が高い。社外であっても、日系企業であれば低い（日本語の壁）。

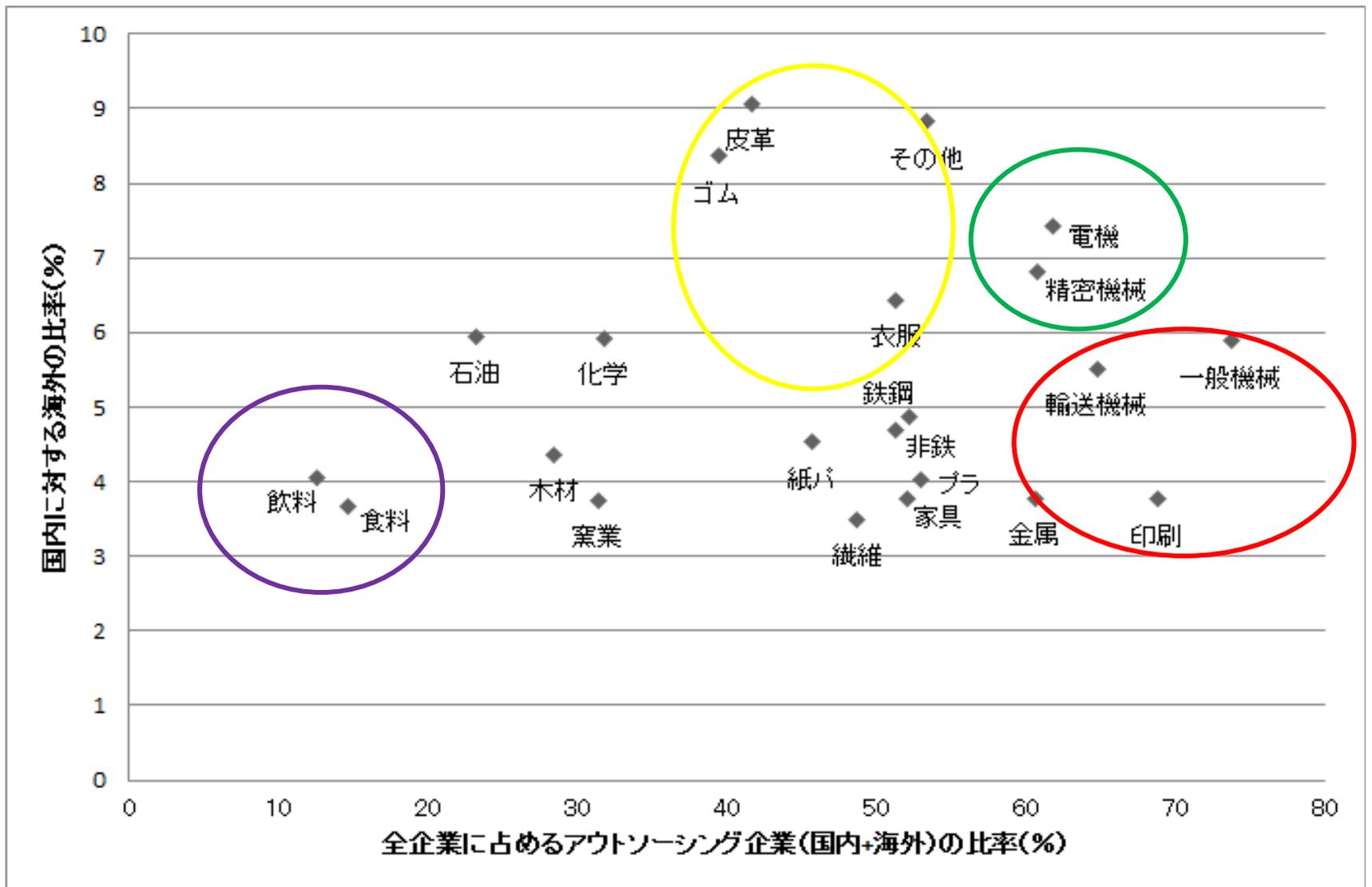


非正規化

- 海外アウトソーシングしている企業では、非正規雇用の割合が高い。
- ただ、派遣規制緩和等も同時進行。
- 先行研究でも、雇用規制は労働需要の弾力性に影響。雇用が弾力的な国は需要の変動が激しい産業に特化。(制度と国際分業をつなげる一連の研究)

ハイテク

- 業種を比べると、海外向けもアウトソーシングが活発な繊維・衣服に対し、自動車では国内の割合が高い。
- R&D集約的な企業は、アウトソーシング先として海外よりも国内を選択。
- 単純なコスト比較でなく、複雑な業務は国内・近距離・対面にとどまるのでは。



プロダクト・サイクル

- Vernon-Antras理論

先進国で発明→途上国に移転→現地企業へ

- 企業のR&D集約度:

(国内で生産して輸出する企業) >

(アジアに直接投資して社内で生産する企業)

> (海外に生産をアウトソーシングする企業)

の順

先進国で研究開発
新製品の生産開始
(国内・社内で生産)

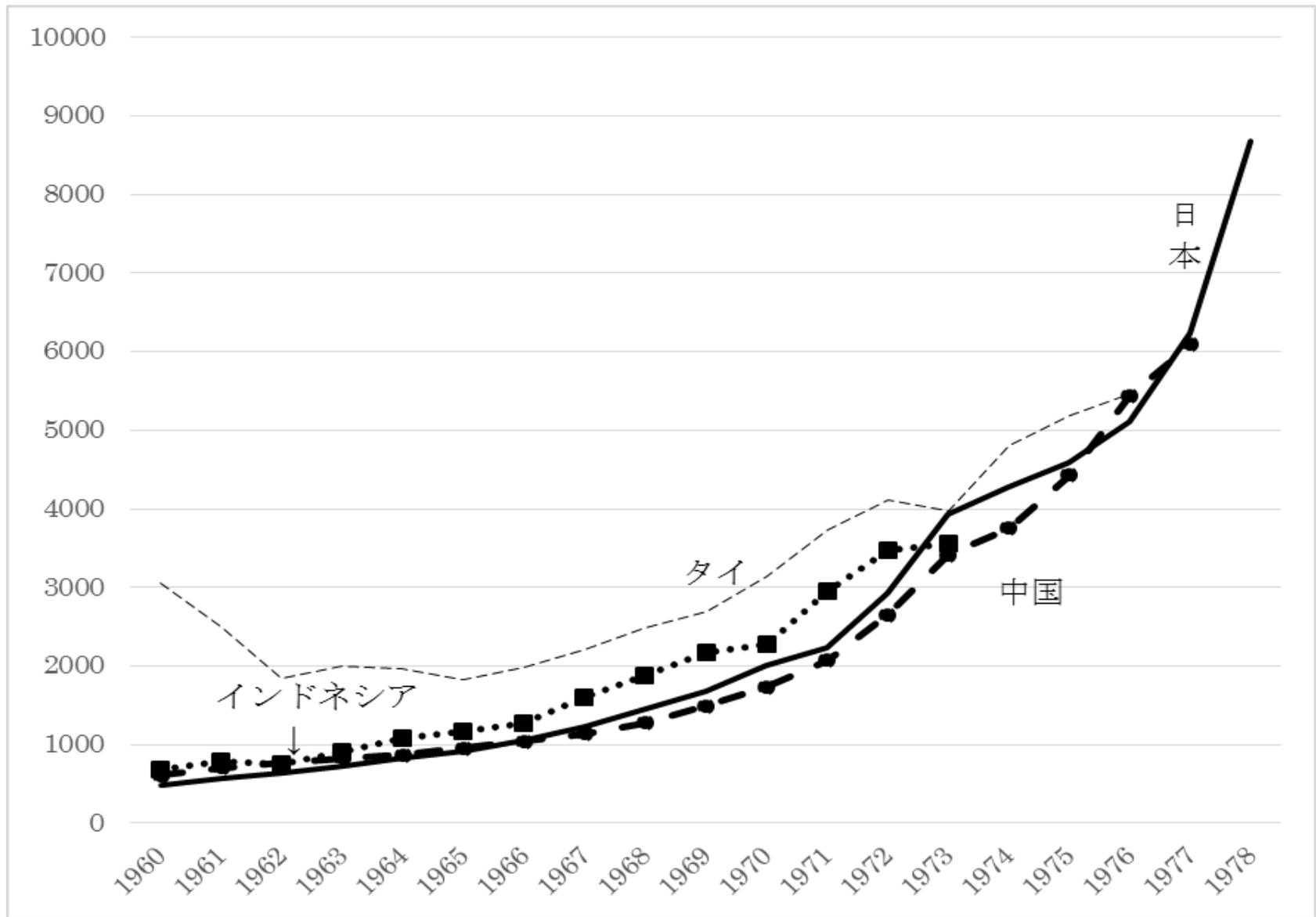
プロダクト・サイクル

発展途上国企業へ
アウトソーシング
(海外・社外で生産)

発展途上国へFDI
(海外・社内で生産)

我が国にとって近年の流れ

- 中国を始めとした近隣アジア発展途上国との賃金格差（縮小→更に遠方へ）
 - デジタル化・通信技術の発達・普及
 - 記録的な円高を経て生産拠点が海外に移転
 - 地震
- ⇒製造拠点の本格的な国内回帰を示す要素は乏しく、海外アウトソーシング拡大は長期的な趨勢か。



国連統計

今後を占う視点

- R&D集約的＝国内が選択される
 - 制度の安定性・信頼性に注目する最近の研究
 - きめ細かい業務に日本は比較優位
 - 単なるコスト切り詰め競争ではない。
-
- ただ、新たな「機械化」も（アウトソーシングされる業務の更なる拡大につながるか）

Task content of Japanese trade

